

男長

ひとりごと

38

齊藤 讓

私は、年に一度町内の各学校を訪問し、授業参観や先生方との懇談を行なっている。これは、自分自身の目と耳で、児童・生徒の実態や学校施設の状況を確かめ、教育現場の生の声を聞き、施策に反映させたいという思いで実施しているものであるが、事実これまでこの中からいくつかの施策が生まれてきた。

私は、年に一度町内の各学校を訪問し、授業参観や先生方との懇談を行なっている。これは、自分自身の目と耳で、児童・生徒の実態や学校施設の状況を確かめ、教育現場の生の声を聞き、施策に反映させたいという思いで実施しているものであるが、事実これまでこの中からいくつかの施策が生まれてきた。

ある女性の先生などは、夕食をつくれないので、ご主人も子供さんも毎晩店屋物ですませていただいているそうです。一カ所のお店ばかりだと、家庭不和かと疑われても困るので、あちこちのお店から出前していただくように気をつかっているといっていました。私の心も痛みますよ。」



決めつけ方はきらいであり、同調はできない。これに類する人間は、社会のどの分野にも多少なりとはいふものである。とはいっても、教師は聖職であるという固定観念があるので、つい、たまに新聞・雑誌や身近な話しの中で、感心できない教師の不祥事や、信頼を欠く行動などを聞きする度に、でもしか先生という疑念が頭をよぎったりすることもある。しかし、私は、先生方との接触を重ねる度に、先生方の目の輝きが増しているのを実感している。少なくともわが光町の小・中学校の教師には、でもしか先生は一人もいないと断言できる。

みると、「あなた、あの科目はだいじょうぶ？」という言葉が先に出てしまっています。私の方がよほど緊張しているのかもしれない。この話は、いまの中学校の先生総ての気持を、代弁しているといってもいい。まさに、職業を超えた子を思う親の心である。私はこのとき、大きな感動を覚えると同時に、果してご父兄の皆さんは、この先生方の苦しみや、店屋物で我慢を続ける家族の隠れた心情を、どれほど理解してくれているのだろうかと思わずにはいられなかった。私は、真の学校教育の成果は、しっかりした家庭教育と、父兄と教師の強い信頼の絆のうえにこそ、もたらされるものだと言っている。

この文章が、皆さんの目に触れる頃は、きっと高校入試の結果も発表になっていることであろう。私はいま、長い間苦闘してきた生徒達の歓声と、苦勞した先生方に隠やかな笑顔が再び蘇ってくるのを、心から念じ待っている。